



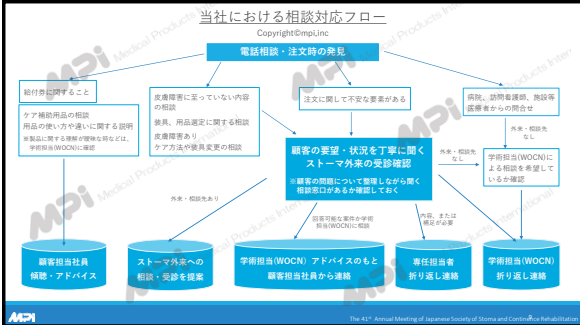
### ストーマ用品の購入先

- ✓ ストーマ用品専門販売店
  - ※メーカーとの直接契約をしている代理店
  - 自治体と業務委託を締結し、日常生活用具給付券の利用が可能
  - WOCNが在籍している販売店もある
- ✓ 薬局・医療機器販売業者
- ✓ 病院売店
- ✓ インターネット小売り、オークションサイト

ストーマ用品の購入先の選択は、ストーマ支援において重要

### 相談体制の強化に向けた取り組み

- 販売店の役割や業務内容の把握
- 販売店に寄せられる相談内容を分析し、相談対応フローを作成
  - 購入数量や内容の変調、記録・理解力の変化など、高齢者の発達過程における潜在的問題への気づきを重要視した。
- WOCNだけではなく、相談内容によって社員全員で分担し、連携を取りながら相談に対応する体制を構築
  - 相談対応に必要な内容と、フローの運用について社内研修を実施した。



### ストーマ保有者に係わる看護師が抱える問題

第24回 日本造形・オストミー・大腸管理学会学術集会 シンポジウム「造形/WOCNから見るとストーマ保有者支援の現状と課題」の集録より一部抜粋

WOCN不在の病院看護師	在宅看護師 (訪問看護師、施設看護師)
・教育体制が確立されていない → ストーマ保有者への指導不足	・ストーマ外来での支援中断 ・WOCN不在の病院での手術 → 相談先がない、不明確
・WOCN不在、ストーマ外来がない → 相談者がいない 退院後の継続支援困難	・ケア経験が乏しい ・指導・教育を受ける機会がない → ケアに対する不安がある中、管理困難症例にも対応

高齢ストーマ保有者への適切な指導・ケア提供のためには、ケアに係わる看護師に対する継続的な支援体制づくりが必要

## 症例紹介

倫理的配慮：文書で本人に同意を得たうえで、個人が特定されないよう配慮した。

### 症例

A氏 80歳代 男性 独居

現病歴：虫垂炎  
 かかりつけ病院にて手術。癒着剥離時、小腸穿孔し小腸切除、ドレナージ施行。術後、正中創内に小腸皮膚瘻開孔。

多量の水様便の排泄と、ストーマ装具の貼付が困難なことから、絶食とカテーテル挿入による排泄管理が行われていた。

## 第1期:WOCN不在の病院看護師への介入

術後の初回相談から退院まで

## 相談から販売店WOCNの介入までの経緯

- 注文の際に、ケアに難渋しているが相談先がなく困っていると看護師より相談があった。
- 相談対応フローに応じ専任担当者が対応、画像などの情報提供を依頼し、専門的な介入が必要と判断、販売店WOCNに引き継いだ。
- 電話とメールで情報を収集し、ケア方法を提案した。  
一面板ストーマ孔を大きく開孔、放射状に切り込みを入れ、腹壁に追従露出する皮膚は、接着性耐久被膜剤で保護

【WOCN不在の病院看護師が抱える問題】 ケアに難渋しているも、相談先がない

## 病院訪問による直接的介入

- ケアへの不安から、直接指導して欲しいと病院看護師より依頼あり。
- 介入13日目に病院を訪問し、ストーマ・フィジカルアセスメントツール
- によるアセスメント、ケア方法について説明、指導した。
- A氏は、ケアが安定し早く食事がしたいと希望を語った。

【高齢ストーマ保有者A氏が抱える問題】  
安定しないストーマ管理による経口摂取の中止  
愉しみが奪われる、制限を強いられる

→ストーマの局所状況のみならず、A氏の希望などの情報も看護師と共有

## 退院に向けた介入

- 病院訪問後、ケア方法が統一され徐々に皮膚障害は改善した。
- 介入20日目には、1～2日毎の安定した交換が可能となり、皮膚障害も治癒した。
- 水分の摂取が可能となり退院が決定、訪問看護が導入された。
- 退院後は補液管理による毎日訪問が必要となるため、2か所のステーションを利用することになった。

【WOCN不在病院の看護師が抱える問題】

退院後の相談対応が困難  
→販売店WOCNの連絡先をサマリーに記載、退院後も継続的に支援

## 退院後の経過

- 退院後、訪問看護師から販売店WOCNへの相談はなかった。
- しかし、訪問看護師はケアに対する不安があり、近隣病院のWOCNに同行訪問を依頼していた。
- 病院WOCNより連絡があり、情報共有やケア方法の検討など連携することで間接的に訪問看護師を支援できた。

【訪問看護師が抱える問題】 ケアへの不安

## 第2期:WOCN不在の病院看護師への再介入

緊急入院後の介入から退院まで

### 在宅療養中の経過報告から介入まで

- 連携している病院WOCNから、発熱による緊急入院の連絡あり。
- かかりつけ病院転院(他病院に3日入院)後、電話で在宅療養中の経過を報告した。
- 変更になったケアに対する戸惑いや、慣れないケアへの不安が伺えたため、今後の継続支援のことを考慮し、再度病院を訪問することにした。

【WOCN不在の病院看護師が抱える問題】  
ケア方法変更による戸惑い、慣れないケアへの不安

### 病院訪問から退院まで

- 病院を訪問し、ケア方法を説明した。また、教育的な係わり心掛け、方法だけではなく根拠も記載した手順書を作成した。
- 退院決定後、病院側の許可を得て、手順書を訪問看護ステーション、連携する病院WOCNに送付し、情報を共有した。
- 退院直前、訪問看護師より退院後の相談をスムーズにしたいと、ICTツールへの招待を受け、参加することになった。

【WOCN不在の看護師への支援】 教育的な係わり  
【訪問看護師への支援】 相談しやすい環境の調整

### 第3期: 訪問看護師への介入

ICTツールの活用による支援

### ICTツールの活用による在宅療養中の支援

- ケア動画を2か所のステーションの訪問看護師と共有したことで、スムーズに退院後のケアが開始できた。
- 日々の状態が容易に把握できるようになり、退院1ヶ月後に皮膚障害の拡大を認めたと、訪問看護師のケアを動画で確認し、すぐにケア法修正やケアポイントの説明ができた。
- 安定したケアにより食事形態が上がり、A氏のQOLは向上した。

【訪問看護師への支援】 ICTツールの活用による継続的な支援  
【A氏への効果】 安定したケアにより楽しみを持って、QOL向上

### 介入により見られた変化

#### 訪問看護師

他の利用者の相談時に、提供された画像や情報が分かりやすく、また十分にアセスメントされていた。  
→ アセスメント能力の向上

#### WOCN不在の病院看護師

ストーマケアの勉強会の依頼があり、積極的に参加していた。  
→ 学習意欲の向上

#### A氏

面版を自分で押さえるなど、積極的にケアに参加するようになった。

### 症例のまとめ

販売店WOCNによる継続的な支援(ケア支援、教育的係わり)

	介入前	介入後
A氏	ストーマ管理が安定しない 食事摂取の制限 楽しみが持てない	安定したストーマ管理 ケアへの参加 活動性の維持・向上 食事の楽しみ、QOL向上
WOCN不在の 病院看護師	相談先がなくケアに難渋 ケアへの不安	学習意欲の向上 ケア・アセスメント能力の向上
訪問看護師	ケアへの不安	安心してケアを実施 アセスメント能力の向上

切れ目のない支援が可能 販売店はストーマ保有者の**伴走者**

### まとめ

- ▶ 高齢ストーマ保有者は、様々な環境・状況の変化や、多くの人々がケアに携わる背景から、看護、介護職への支援が重要である。
- ▶ 販売店は、医療処置が必要となるストーマ保有者からの相談の場合、病院に繋ぐ必要があり、日頃から受け入れ等の情報を収集している。  
→繋ぐ窓口の存在、人材の育成  
石丸 健 他(日本赤十字社医療センター)：ストーマケアチーム活動報告 第2報 晩期合併症を有する患者への長期的な支援とは 第54回東京ストーマリハビリテーション研究会、2023
- ▶ 連携においては、互いに『誰が何をできるのか知る』ことが重要であり、それにより更なる支援体制の発展に繋がっていくと考える。

### 高齢ストーマ保有者支援の今後の課題

- ▶ 長期化する超高齢多死社会の中で、長く支援を続けるためには、一人で抱え込まない、誰かが過度に頑張らない体制・仕組みづくりが課題であると考ええる。
- ▶ 販売店WOCNとして、様々な機関とつながり、高齢ストーマ保有者が自分らしく生きていける支援体制構築を目指し、係わる人々と共に支援の輪を広げていきたい。

ご清聴ありがとうございました。

